

令和5年度 第2回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和5年5月30日（火）午後7時～午後8時40分
場 所	さぬき市役所附属棟 多目的室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計4名 向井審議監 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主任主事
欠席者	なし
傍聴者	3名
次第	1 開会 2 前回会議において提案のあった各テーマの現状及び市における取組状況等について 3 意見交換 4 その他 5 閉会
配布資料	次第 資料1 さぬき市移住・定住促進事業 資料2 さぬき市人口ピラミッド（令和5年3月31日現在） 資料3 移住者数・世帯数・相談件数（R2～R4年度） 資料4 令和3年度さぬき市空家等実態調査結果 資料5 空き家バンク新規登録・成約件数 資料6 さぬき市空き家リフォーム支援事業 資料7 老朽汲危険空き家除却支援事業 資料8 さぬき市の広報媒体
発言者	意見概要
座長	前回は課題の洗い出しということで、実際肌で感じている課題感のようなことをメインで扱ったが、それに対してこのような制度があればといったことに対して、「実は既にできている」、「制度としてあるが使われていない」、「制度はあるが届いていない」、「自分たちが知らないだけで制度はあるし、使われているがそのアピールができていない」といった実態の部分が今回明確になれば、次回以降、その解決策を考えたり、より良い形を模索するヒントになると思う。今回のデータを共有していただきながら、更に前回挙げた課題をより抽出できれば良いと考えている。
事務局	（人口減少について） 資料1～3を説明
委員	「さぬき暮らし応援補助金」は、徳島文理大学の移転が発表された後に学生を呼び

	込む目的で昨年から新設されたものだと思うが、昨年度の実績はどれくらいか。
事務局	50件程度であったと思う。
委員	移住促進動画を拝見したが、何故さぬき市の人を起用しなかったのか。皆さん有名な方だが、さぬき市の方ではなかったと思う。オペラ歌手やヒップホップ、シンガーソングライターをされている方は恐らくさぬき市にもいると思う。さぬき市として出すに当たっては、さぬき市の方が良かったのではと個人的には思う。
事務局	どういった経緯で作成したのかは確認できていない。
委員	移住促進動画について、津田でないところが津田だと紹介されているということを知った。
事務局	担当課に伝える。
委員	こういう制度があることは理解できた。肝心なのは移住してきた方、定住する方が何故さぬき市を選んだのかという理由が分かるアンケートのようなものが見てみたい。制度的には金銭的にも手厚くて個人的には帰ろうかなと思ったりするなど魅力的だと思う。恐らく他の自治体も同じようなことをされている中で、さぬき市が勝てるポイントは何処かということがアンケートから見えてくるのではないかと思う。
座長	可能であれば次回までに用意していただきたいし、移住コーディネーターの方にも移住定住がテーマの会の時に参加していただければ、実はこんなところが補えていないという意見が聞けると思う。
事務局	担当課に確認をして準備させていただきたい。移住コーディネーターの出席についても調整したい。
事務局	住み続けるということとなると総合計画のアンケートの中にも項目としてあったと思うので資料として出すことを考えたい。
委員	人口ビジョンの将来展望だが、さぬき市として色々と対策を講じているということだが、具体的にどういう対策なのか。先程説明があった移住定住の施策を講じることで、将来展望として8千人の人口減少を改善する話なのか、それとも資料に載っていない全く別の対策を講じるということなのか。
事務局	人口ビジョンについては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とセットのもので、

	<p>戦略中にある、移住定住施策の他にも、例えば働く場であるとかといった様々な施策に取り組むことによって2060年には31,000千人の確保を目指すといった計画となっている。</p>
座長	<p>移住についてフェーズ分けをして制度の評価をしてみるのはいかがでしょうか。一つは「認知フェーズ」でそもそもさぬき市が認知されているのかどうか。その次が「検討フェーズ」でさぬき市の移住を考えていて窓口で相談してくる人数であったり、「移住体験ハウス」や「お試し滞在宿泊助成」、「移住ガイドツアー」を使う人になり、最後は「移住決定フェーズ」といったように3段階あると思う。今聞いて分かったのは、一番最後の移住されてからの制度をみると、満足度が高かったり、回答率も高いなど、移住が決まってからは手厚いという印象を持たれている。「検討フェーズ」で色々と制度を知った方は満足度が高い。ただ、「移住体験ハウス」と「移住相談」、「お試し滞在宿泊助成」の移住に繋がった率が全然違うことが興味深い。「移住体験ハウス」の利用者が実際に移住された率は、令和元年度は2/30となっており、本当に「検討フェーズ」の人が来ているのかどうかは疑問だ。逆に「お試し滞在宿泊助成」は、令和元年度は1/1、令和2年度が1/3、令和3年度が1/4となっており、率としては高く、移住を本気で考えている人が利用している制度となっている。こういうのを見るだけでも、「検討フェーズ」として市がどちらをプッシュしていくかが問われるのではないかと。「移住相談」も令和元年度が6/106、令和2年度が14/79、令和3年度が13/101となっており、窓口の相談でこの割合だともう少し改善できるのではないかと思うように、「検討フェーズ」での施策はまだまだ改善の余地があるのではないかと思う。「認知フェーズ」のところでは、「移住促進動画」については、地元の人は見ても新しい人に広く届くのかと言えば少し難しいと思う。他の自治体も奇をてらったメディア受けすることをやったりもするが、それも数字として着実かと言えばそうではない気がしている。ふるさと納税を寄附された方の内、さぬき市に一回行ってみたいという方が7割という高い数字を出していて、移住の観点から言えば「認知フェーズ」であり、これを「検討フェーズ」に繋げていくみたいなことができれば、実は新しい施策をしなくても、まずは検討施策を充実させ、それをふるさと納税の寄附者と繋げることだけでもインパクトがあるのではないかと思う。今回のデータを基にフェーズ分けすることで手厚い部分や足りていない部分が見えてきていると思うので、次回以降で深く議論できれば良いと思う。</p>
委員	<p>三世代同居・近居支援金について、令和3年度が225件と前年度から大幅に増えているがどういった理由があるのか。</p>
事務局	<p>この制度には移住型と定住型があるが、令和3年度から定住型を増やしたことによるものである。元々は移住されてきた方しか対象としていなかったが、さぬき市で子どもができた人も対象としたことと経過措置を設けたことで件数が増えている。</p>

事務局	(空き家について) 資料 4～7 を説明
座長	「老朽危険空き家除却支援事業」については、除却が認められる基準があるのか。
事務局	この事業は国や県の補助が入った制度で、基本的には空き家の評点を行い、一定の点数を超えたら対象になるというもので、外観や内観、基礎などの様々な観点から評価している。
座長	イメージとしては、「D」や「E」あたりのみ適用できるというイメージでよいか。
事務局	倒壊の恐れがあることで言うと恐らくそうだと思う。
委員	特に志度が空き家が多いエリアではあるが、実際に倒壊の危険というよりは、ほとんど屋根が落ちていたりという家がそのまま放置されているという状況もあるが、住宅密集地にあるので接道がないことや土砂災害危険区域のために再建築が不可な土地があり、潰してしまうと新しい家が建てられないことから中古住宅のまま活用しなければならないことがある。ただ、倒壊の危険があるところについては、潰したところで固定資産税が高くなるだけで、次の活用が見出せないということが問題点としてあると思う。あと、鴨庄・鴨部・小田で使用する方がいなくなった家を売却したいが、田が付いているところが多々ある。もともと40a以上の田を持っている農家でないと田を売り買いできず、家だけ貸し出すということができなかったが、今年の4月から40a以上持っていなくても最低限の家庭菜園レベルであっても田を活用できるのであれば、売り買いが許されるように緩和されたので、これからそのようなところは動き始めるのではなかと思う。
座長	農地付き空き家は、逆に外から来る方にとってはむしろ探しているという話を聞くのでプラスに変えていければ面白いのではないかと思う。空き家状態の固定資産税が何倍にもなるということを国が言っていたがいつからか。
事務局	今は老朽危険空き家の判定をして、行政からの改善命令が出た時点で固定資産税の軽減がなくなるようになっているが、今度の法改正では、詳細はこれから決まっていこうと思うが、管理不全の空き家の認定がされた段階で固定資産税の住宅に対する軽減がなくなるということまでは決まっている。
座長	社会全体の流れとしても、空き家を持っていること自体が負債色として強く、活用を促していこうという方向に進みつつあるので、それを追い風に出来ればいいのではないかと思う。

委員	実態調査が令和3年に行われたということであるが、どの建物がどこにあるのかが分からないのがマイナスだと思う。例えば、地図にここの建物が「A」でここの建物が「B」というふうに皆が共有できるようにしておくと、自分の家の老朽化のランクを認識できるのではないか。次回の調査の時は調査結果を地図に落としたものを地域の人達が見ることができれば良いのではないかと思う。当事者意識が低いということもあって処理ができないということもあると思う。
事務局	実態調査は実際に外観目視で調査しており、地図上に調査結果を落としたものを市は貰っているが、個々の家は私有財産であることから、その地図を一般に公表することは難しい。ただ、その地図を活用して、利用できる空き家を空き家バンクへ登録するように促すことや、良い立地の空き家を取り壊して活用するなど、多面的に空き家・空き地を評価して活用できそうなものを利用していくような事業を今進めている。
委員	一般に公開することは難しいということだが、自治会毎ということでは難しいのか。
事務局	本当に危険な空き家であればお知らせすることになるが、家の評価のランクまでをお知らせするという事は難しいと思う。
事務局	(情報発信について) 資料8を説明
委員	観光協会のLINEを登録しているが、観光協会はさぬき市でイベントがあると告知がくるが、さぬき市の公式LINEは、こちらが調べたいことがある時以外は市からの発信というものがあまりないので、利用者の迷惑にならない範囲で反復継続して目に触れるようにすると公式LINEで調べてみようという意識付けになるのではないか。
事務局	公式LINEは、基本的に市のホームページと連動しており、ホームページに掲載する情報をLINEでお知らせするという流れになっている。一日1件は発信している。セグメントの設定の関係であると思われるため、そのあたりの周知が市として出来ていなかったのかもしれない。
委員	逆に一日1件は多いというイメージはあるため、オフにしてしまう人もいないかと思う。
事務局	そういった方のために自分の興味がある情報だけを受け取れるセグメント機能を設定している。セグメントで選択していた情報が決まったタイミングで届くように

	なっている。
委員	必ず一日1回発信しなければならないという条件ではないはずだ。三日に1回とか一日に1回とかにすると、情報更新が遅いのではないかという話にもなり難しいのではないかと思う。
委員	広報活動全体を統括している方はいるのか。
座長	広報活動だと全体がバラバラに行うことは意味がないと思うので、全体の指揮を執っている方、例えばSNSはこの方向で行い、補えないところを広報紙で行うとかといったディレクションをしている方はいるのか。
事務局	広報紙、市ホームページ、ケーブルテレビは秘書広報課が所管をしているが、全体の広報を統括しているところはこれまでなかった。市の大きな考え方としては、最終はホームページに誘導して詳しく見ていただく、そのための認知を他の媒体でするといったようなことで考えていこうという方針は持っている。
委員	やはり媒体にとって得意不得意というものがあると思うし、県外の人向けに認知・拡散していくことをどの媒体でやっていき、その受け皿をホームページで情報提供していき、さらにホームページだけでは弱いのでLINEでも発信していくといったことができれば良いのではないかと思う。
座長	宮崎県日南市ではマーケティング課という広報に特化した課を作り、元リクルートの方と広報戦略を考えたり、マスコミ向けの話題性のある企画を観光協会と一緒にしたりということをしている。広報に関しては民間の方が得意な部分があると思う。一つ一つをどうするというよりは全体的な配置を考えてみるだけでも変わる部分があるのではないかと思うので、広報に関する大きな絵を議論できれば良いと思う。広報がしっかりすると空き家や移住定住の話にも繋がってくる。順番としては、空き家や移住定住のテーマを具体的に考えて、これらをどう届けるかという届け先が具体的にになった段階で広報の話をも議論できればと思う。次回以降の会議を進めるにあたって何か要望があればお願いしたい。
委員	次の会で何を議題にするかを決めてはどうか。
座長	移住定住の次に空き家という順番が良いと思う。次の会で移住コーディネーターの方に来ていただくことでお願いしたいが、他にこういう方から意見を聞いておきたいとかはあるか。一つは砂川委員がおっしゃっていた実際移住された方の移住の決め手となった情報は聞いてみたいと思う。

委員	県内・県外のどこからのUターンが多いのかという情報を知りたい。
座長	都道府県までではないが、関西地区や中国地区といった情報があればお願いしたい。
委員	転出者のアンケートはないのか。
座長	外から呼んでくることもそうだが、出ていくことを防ぐことも大事なことだと思う。
委員	結局近隣の市や町に出ていくことが多いということであるが、大学進学で出ていっているという訳でもないと思う。
座長	可能であれば子育て施策や公園などといった子育て関連のアンケート結果があればお願いしたい。外向けの施策については得意なメンバーが揃っているが、内向けの施策についてはイメージが付きにくい部分もあるのでなるべく声を聞きながら進めていきたい。
委員	20歳代の方が結構いるが大学に移転に伴って減るのではないのか。
委員	実際、大学生は住民票を動かしていない方が多いと思う。県外に出ていく方がいる中で志度が好きでずっと志度にいる方も一定数いる。そういった年代の方へのアプローチも良いのではないかと思う。
委員	志度地区の空き家は特定のエリアごとに密集しているのか、それともバラバラなのか。
委員	志度地区に関して言えば、割と密集しているところが多い。市役所近辺の地域は密集している。
委員	さぬき市PRサポーターは広報に含まれないのか。
事務局	広報媒体としては載せていないが、広い意味で言えばそうなるかもしれない。
座長	市が所有している公共施設も一つのメディアだと思っている。公民館や道の駅などの日常的に使う方がいる施設で可能であれば来場者数が分かるものがあれば頂きたい。こういった施設は市が自由に広報できる看板でもあると思うので、例えば空き家を持たれている方が多い高齢の方がよく利用する施設に空き家関係のものをメインにしたロードマップ的なものを置くだけでも問合せ数が増えたりするので

	<p>はないか。広報紙だと紙面スペースに限りがあるため、現地にあるものを一つのメディアとして活用していくことはありなんじゃないかと思う。本日、課題や現状は説明を補完していただく中で確認できたのではないかと思うので、次回以降は移住定住を始めとして空き家、広報という形で1回ずつ深く議論する場を設けて、このメンバーだからこそできる課題を決めるというところまで出せば良いと思う。次回は移住定住をテーマに議論するというので、他の自治体でこんなことをしていたなどでも結構なので、何かやり取りができれば良いと思う。</p>
委員	<p>結局、具体策までいかないと会議の意味がないので、ある程度の予定は決めておきたい。</p>
委員	<p>9月ぐらいまでに課題が明確になっていけば良いと思っている。来年度予算に反映するとなると今のペースでいくと厳しいと思う。</p>
事務局	<p>概要などが早めに分かっていたら対応ができるものもあると思う。</p>
座長	<p>次回から議論の段階から関連する課から1名だけでも可能であれば参加していただければ、議論の経緯等の擦り合わせができたり、現場の意見等も聞けたりできると思うので是非お願いしたい。</p> <p>以上で、本日の会議は終わりたいと思う。</p> <p style="text-align: center;">～閉会～</p>